

# 内水ハザードマップ

万が一の災害時にあわてないために。

内水ハザードマップとは・・・

近年、下水道や道路側溝・水路等の排水施設の能力を超える局所的で短時間の強雨（集中豪雨やゲリラ豪雨）が頻繁に起こり、河川等への円滑な排水ができず浸水（内水による浸水）被害がたびたび発生しています。

市民のみなさまに「内水による浸水」の正しい知識や避難方法などの情報を提供し、浸水（内水による浸水）被害への対処等を目的として「内水ハザードマップ」を作成しました。

「洪水ハザードマップ」をはじめとした各種ハザードマップとあわせて、わかりやすいところに保管をお願いします。



常に取り出せる所に保管して、  
時間のある時に読んでおきましょう。

## はじめに

### マップの役割

本マップは、自分の命は自分で守る「自助」、地域の安全は地域で守る「共助」、行政が行う防災対策である「公助」をバランスよく高めることにより、浸水被害を事前に防いだり（防災）、軽減（減災）を図ることが役割になります。

なお、内水による浸水被害は身近なところで発生するので、内水による浸水被害から自分の命は自分で守ること（自助）が必要になります。

### 「内水による浸水」と「外水による浸水」の違い

#### 内水による浸水

短時間の強雨（集中豪雨やゲリラ豪雨）などにより、下水道・道路側溝・水路などの排水施設から円滑に河川へ排出できず、そこから雨水が溢れだし浸水が発生することです。

浸水は身近な場所や、河川から離れたところでも発生します。



内水ハザードマップ

#### 外水による浸水

広範囲にわたり大雨が降ることにより、河川水が増水し、河川堤防から水が溢れ出したり、堤防が壊れたりして、河川の水が住宅地などに流出することにより浸水が発生することです。

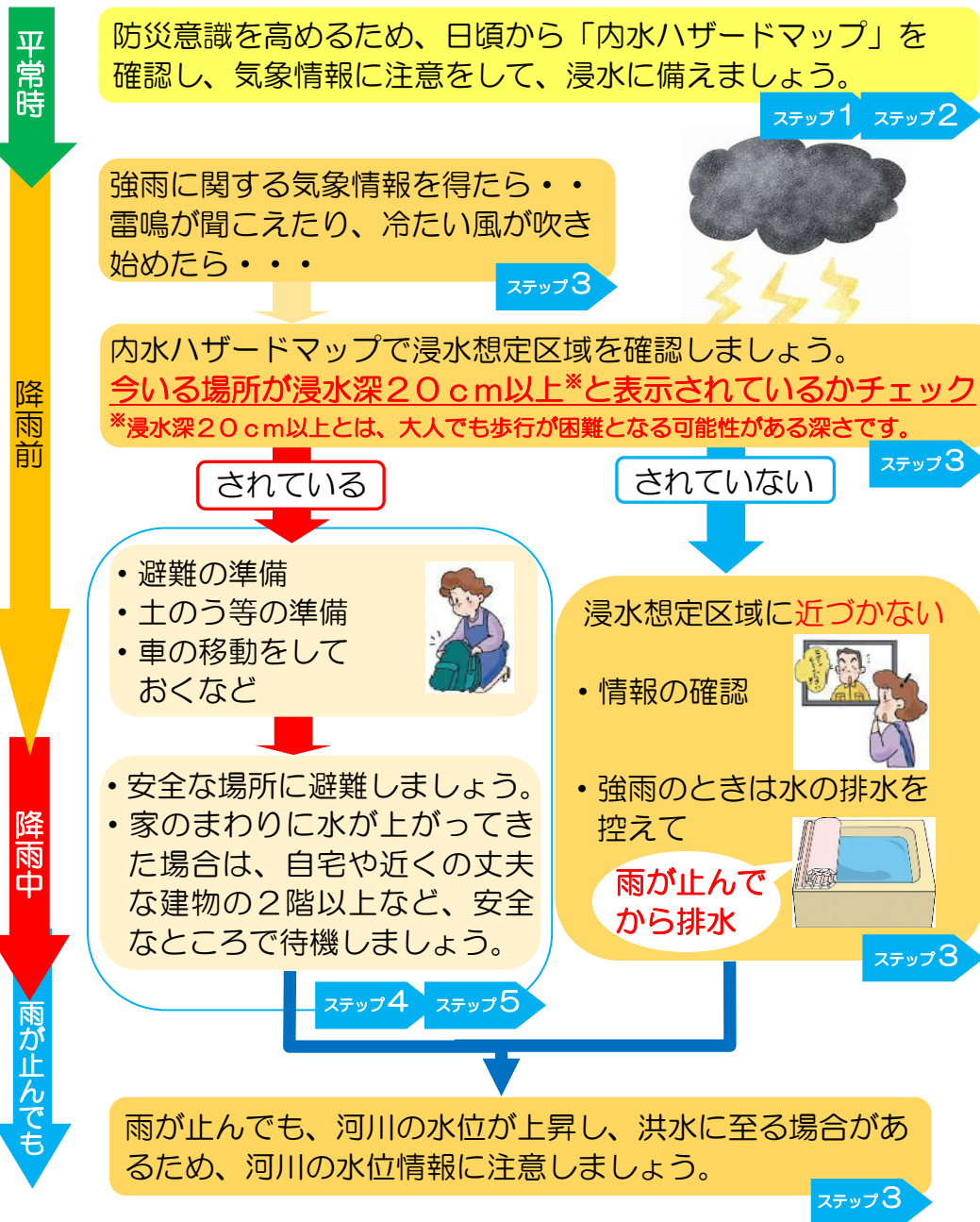


洪水ハザードマップ

### マップ作成に係る設定条件

マップの作成にあたっては、浸水シミュレーションの実施（福島市の過去最大降雨量である平成29年7月28日に記録した1時間当たりの降雨量71mmを採用）と内水による浸水を対象とした浸水実態を聞き取りし、マップに反映させました。

# マップの使い方を確認しましょう。



## ステップ1

ぼうさいいしき たか  
**防災意識を高める**

## 雨の強さと雨量の関係を知っておきましょう。

降っている雨を観察することで、だいたいの雨量を知ることができます。危険な状態になる前に自分で判断して避難ができるよう、雨の降り方と雨量の関係を知っておきましょう。

	やや強い雨 (10~20mm)	強い雨 (20~30mm)	激しい雨 (30~50mm)	非常に激しい雨 (50~80mm)	※ 猛烈な雨 (80mm以上)
予想雨量 (1時間雨量)					
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーパーと降り続く)	息苦しくなるような 圧迫感がある 恐怖を感じる
人への影響	地面から跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしてもぬれる	傘は全く役に立たなくなる		
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる	道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる		
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険		

**我が家の防災メモ** ※本マップの対象降雨量は1時間当たり71mmです。

- 雨の強さと降り方から住んでいる地域の特徴
- 一時避難場所

例1：〇月〇日の豪雨では、家の前の道路で20cm程度水が溜まっていた。

例2：一時避難する場所は、〇〇公園駐車場

## ステップ2

ぼうさいいしき たか  
防災意識を高める

# 日ごろから準備をしましょう。

水害から身を守るには、日頃から水害に関心を持ち、万が一に備えて準備しておくことが大切です。

### 1 天気予報や気象情報に気をつけましょう。

天気予報に注意し、天気の移り変わりに気を付けましょう。



### 2 非常時に持ち出すものを準備しておきましょう。

慌てて準備を始めると、必要なものをすっかり忘れてたり、必要以上に時間がかかってしまいます。あらかじめ準備をし、家族で置き場所を確認しておきましょう。



### 3 側溝や雨水桝の上は定期的に掃除しておきましょう。

側溝や雨水桝の上にゴミや落葉がつもっていると、水がのみこめず、浸水の原因になります。側溝や雨水桝の清掃にご協力ください。



### 4 家族やご近所で避難場所や避難経路の確認をしておきましょう。

避難所・避難場所はどこなのか、そこに安全に行くにはどう行けばいいのかを前もって確認し、地図に書き込んでおきましょう。



### 5 防災上の配慮を要する方への気配りをしましょう。

ご自分の家族や住まいだけでなく、地域全体にも目を向けましょう。特に一人暮らしの高齢者や障がい者、子ども等、防災上の配慮を要する方には、日頃から気配りが必要です。



### 6 家庭でできる簡易水防を活用しましょう。

浸水深が小さいときは、家庭にあるものを使って、水の侵入を減少させることができます。大きめのゴミ袋やポリタンク等に水を入れて、水の侵入口となるところに並べます。



## ステップ3

じょうほうにゆうしゆさき かくにん  
情報入手先の確認

# 防災情報を集めましょう。

気象情報・防災情報は、このような経路・手段で集めることができます。

	市が発表する情報	発令時の状況	みなさんがとる行動
高	避難指示(緊急)	災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合	一刻も早く安全な場所へ避難しましょう。
緊急度	避難勧告	災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合	家族、近所で助け合いながら避難場所に速やかに避難しましょう
低	避難準備 高齢者等避難開始	避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予測される場合	避難できるように準備し、情報を収集しましょう。避難に時間を要する人は避難を開始しましょう。

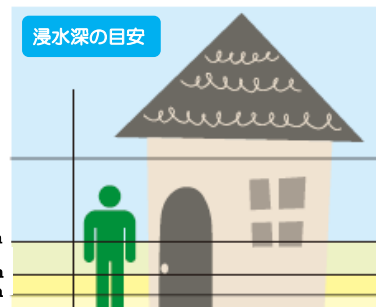
### インターネット情報

- 福島市公式ホームページ「福島市防災ウェブサイト」  
<http://bousai.city-fukushima.jp/>
- 国土交通省 川の防災情報  
<https://www.river.go.jp/>
- 福島河川国道事務所 LIVE あぶくまがわ  
[http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abukuma\\_live/live07.html](http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/abukuma_live/live07.html)
- 福島県 河川流域総合情報システム  
<http://kasseninf.pref.fukushima.jp/gis/>
- 福島地方気象台  
<https://www.jma-net.go.jp/fukushima/>
- 防災情報「全国避難所ガイド」  
スマートフォンアプリ
- 福島市公式ツイッター  
@fukushimacity
- 福島市公式フェイスブック  
<https://www.facebook.com/fukushimacity/>



### 内水による浸水深の目安

浸水深はこれまでに福島市で降った雨の中で最大の一時間雨量を記録した降雨によるシミュレーションに基づくものです。着色していない地域でも、雨の降り方によっては絶対に安全とは言えません。気象情報に十分注意してください。



## ステップ4

避難行動の確認

### 避難方法と危険箇所を確認しましょう。

浸水の恐れがある場合や避難情報等が発表された場合

#### 水平避難

安全な避難場所へ  
いける場合は・・・

危険箇所から離れて安全  
な避難場所へ一時退避

#### 垂直避難

すでに浸水が始まり、避難場所  
に向かう方が危険な場合は・・・

無理な避難はやめて、自宅や近くの  
丈夫な建物の2階以上に一時避難

局所的な強雨による内水浸水被害は、洪水被害とは異なり広域的な水害にはなりにくく避難所が開設されない場合があります。そのため、避難行動を行う際には、避難場所に移動する水平避難だけでなく、自宅等の2階以上に移動する垂直避難などの避難行動も有効です。

### 道路等の危険箇所

#### ■坂道



危険

坂道では、水深が浅くても水の流れが速くなるので危険です。

#### ■側溝のある道路



危険

側溝などは、見えにくいので、落ちて流される危険があります。

#### ■アンダーパス ※マップに表示しています⚠

アンダーパスとは、鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことを言います。地形的に雨水が集中しやすくなっています。



## ステップ5

避難行動の確認

### 避難の際の注意事項を確認しましょう。

避難場所までの経路に危険箇所がないか、日頃から確認しておきましょう。

①天候や災害状況  
避難等の情報に  
注意し、浸水が  
起きる可能性が  
ある場合には十分な警  
戒をしましょう。



⑥歩きやすい服装  
で、二人以上で  
避難しましょう。



②なるべく新しい  
情報入手する  
ように努めま  
しょう。



⑦浸水箇所での避  
難は、段差やマ  
ンホールに注意  
しましょう。



③避難する前に電  
気、ガス、火種  
を消しましょう。



⑧お年寄りや障が  
いのある方など  
の避難の手助け  
をしましょう。



④非常持出品は最  
小限にしまし  
ょう。



⑨車での避難はひ  
かえてください。



⑤長靴は水が入る  
と歩きにくく  
なります。運動靴  
をはきましょう。



⑩もし逃げ遅れた  
ときは、近所の  
丈夫な建物の上  
の階に一時的に  
避難しましょう。

